

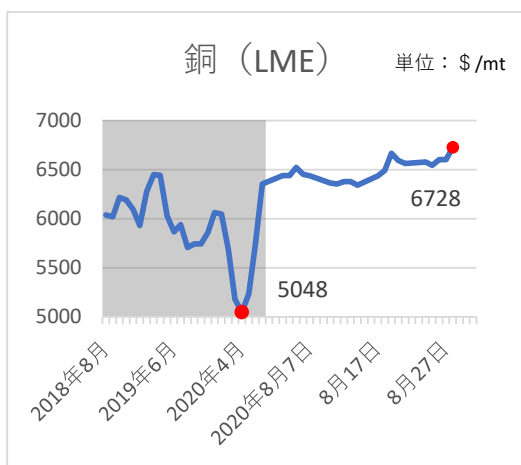
# 非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

## 銅

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- COVID-19 感染拡大からの経済活動再開や中国のインフラ投資政策により8月は\$6,500 近辺を推移
- 8月28日、2018年6月以来の高値となる\$6,728

(2018年8月～2020年7月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際銅研究会(ICSG)の8月24日発表によると、2020年1～5月の世界の銅需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～5月の世界の銅需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～5月 実績	2019年1～5月 実績	増減率	2020年年間予測 (2019年10月発表)
鉱石生産	8,065	8,248	-2.2%	20,921
地金生産	9,850	9,792	+0.6%	25,281
地金消費	9,849	10,061	-2.1%	25,000
需給バランス	+1	-270		+281

(うち、中国の銅需給実績)

	2020年1～5月 実績	2019年1～5月 実績	増減率
鉱石生産	673	668	+0.8%
地金生産	3,959	3,960	-0.0%
地金消費	5,314	5,124	+3.7%

(出典) 国際銅研究会

### 3. 供給障害

#### ◆ リオ・テイント、2020年の銅地金生産計画量をさらに下方修正(米)

リオ・テイント(英/豪)は8月19日、修正したグループ全体の2020年銅地金生産計画量を発表した。16.5~20.5万tだった以前の計画量から3万t削減し、13.5~17.5万tとした。米ユタ州のケネコット銅鉱山製錬所で定修明けの設備トラブルが発生し、操業再開が遅れたことが要因で、100%の操業に戻るのに2か月間程度かかることが見込まれている。同社の当初の2020年生産計画量は20.5~32.5万tだったが、COVID-19感染拡大対策の実施や3月に発生した地震の影響を受けて、一度下方修正をしていた。ケネコット銅鉱山製錬所は2019年に年間18.5万tの銅地金を生産している。

#### 【国内】

##### 1. 建値推移(千円/t)

8月3日	8月6日	8月14日	8月19日	8月24日	8月27日
720	730	710	740	730	740

##### 2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2020年7月分=令和2年7月分)

	2020年7月	2020年6月比	2019年7月比
生産	134,849 t	+2.2%	+7.9%
出荷	138,762 t	+4.7%	+1.5%
在庫	113,188 t	-3.3%	+19.3%

#### (出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の増加となった。出荷は前月比が3か月連続の増加、前年同月比は4か月ぶりの増加。内訳は内販が前月比1.7%減、前年同月比28.7%減の6.0万tで、それぞれ2か月ぶりの減少と13か月連続の減少。輸出は前月比10.2%増、前年同月比50.7%増の7.8万tで、それぞれ3か月連続の増加と8か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比26.0%減の4.0万tで10か月連続の減少、伸銅品向けは36.7%減の1.7万tで16か月連続の減少。在庫は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は7か月連続の増加となった。

##### 3. 需要部門別動向

(一社)日本電線工業会によると、2020年7月の銅電線出荷は前年同月2019年7月比15.6%減の5.4万t(推定)と10か月連続で減少した。うち内需は前年同月比15.6%減の5.3万tで6か月連続の減少、輸出は15.8%減の900tで7か月連続の減

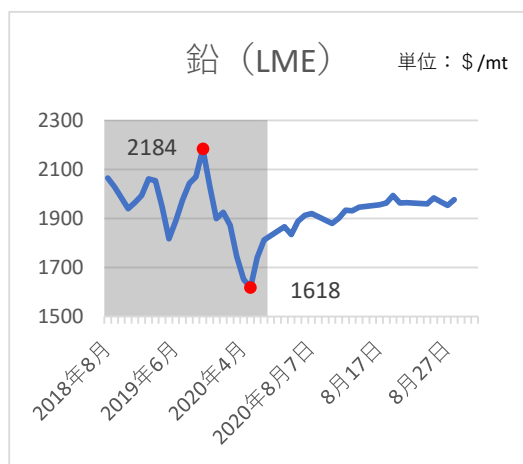
少。内需の部門別では、通信が4か月ぶり、電力が2か月ぶり、電気機械が23か月連続、自動車に4か月連続、建設・電販が6か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年7月の伸銅品生産は前年同月2019年7月比34.6%減の4.4万t(速報)と20か月連続の減少となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比31.1%減で3か月連続の減少。自動車端子向けの黄銅条は46.0%減で18か月連続の減少。コネクタ向けの青銅板条は14.9%減で3か月連続の減少。エアコン向けの銅管は32.4%減で6か月連続の減少となった。

## 鉛

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ COVID-19 感染拡大から経済活動の再開が進み、上昇基調
- ・ 8月19日、2020年1月以来の高値となる\$1,994

(2018年8月～2020年7月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の8月21日発表によると、2020年1～6月の世界の鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～6月の世界の鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～6月 実績	2019年1～6月 実績	増減率	2020年間予測 (2019年10月発表)
鉱石生産	2,155	2,281	-5.5%	4,940
地金生産	5,562	5,814	-4.3%	11,960
地金消費	5,484	5,827	-5.9%	11,900
需給バランス	+78	-13		+55

(うち、中国の鉛需給実績)

	2020年1～6月 実績	2019年1～6月 実績	増減率
鉱石生産	934	926	+0.9%
精鉱輸入	318	421	-24.4%
地金生産	2,262	2,375	-4.8%
地金輸入	18	86	-78.9%
地金消費	2,301	2,391	-3.8%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

8月7日	8月19日	8月26日
264	270	273

### 2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年7月分=令和2年7月分)

	2020年7月	2020年6月比	2019年7月比
生産	16,529 t	-1.9%	-9.7%
出荷	16,467 t	+13.5%	-13.9%
在庫	20,844 t	+0.3%	+50.5%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は3か月ぶりの減少となった。出荷は前月比は増加したものの、内需の減少により前年同月比は減少。前年同月比は5か月連続の減少となった。在庫は前月比、前年同月比ともに増加。前年同月比は3か月連続の増加となった。

### 3. 需要部門動向

6月の自動車生産台数は前年同月比36.6%減の51.4万台となり9か月連続で前年同月を下回った。また、二輪車生産台数は前年同月比25.7%減の3.2万台となり、5か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会によると、6月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で153.3万個(前年同月比14%減)と9か月連続で減少、自動車用以外の鉛蓄電池も45.5万個(4%減)と5か月連続で減少した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は198.8万個(12%減)と9か月連続で減少した。

### 鉛関連製品生産統計(2020年6月分=令和2年6月分)

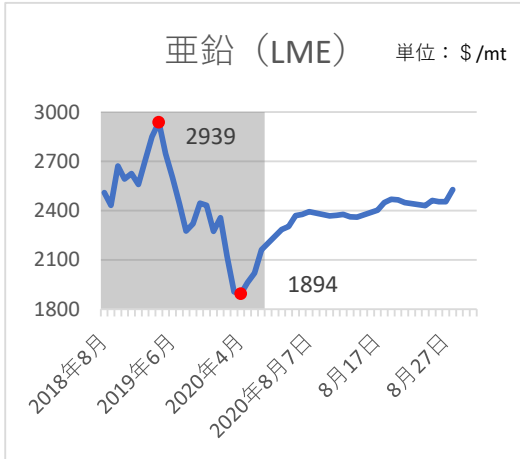
	2020年6月	2020年5月比	2019年6月比
自動車	513,626台	+66.7%	-36.6%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	12,675 t	+39.4%	-21.9%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

## 亜鉛

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ COVID-19 感染拡大から経済活動の再開が進み、上昇基調
- ・ 8月は1か月間で\$240程度上昇

(2018年8月～2020年7月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の8月21日発表によると、2020年1～6月の世界の亜鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～6月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～6月 実績	2019年1～6月 実績	増減率	2020年間予測 (2019年10月発表)
鉱石生産	5,816	6,287	-7.5%	13,640
地金生産	6,628	6,582	+0.7%	13,990
地金消費	6,423	6,669	-3.7%	13,800
需給バランス	+205	-87		+192

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2020年1～6月 実績	2019年1～6月 実績	増減率
鉱石生産	2,042	2,069	-1.3%
精鉱輸入	964	672	+43.4%
地金生産	3,048	2,908	+4.8%
地金輸入	201	322	-37.6%
地金消費	3,150	3,120	+1.0%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

8月3日	8月7日	8月18日	8月21日
295	304	310	313

### 2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年7月分=令和2年7月分)

	2020年7月	2020年6月比	2019年7月比
生産	25,242 t	-32.5%	-18.4%
出荷	38,158 t	+13.3%	-7.6%
在庫	66,688 t	-16.2%	+6.4%

(出典)日本鋳業協会受払

生産は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は5か月連続の減少となった。出荷は輸出の増加により前月比は増加、内需の減少により前年同月比は減少。前年同月比は10か月連続の減少となった。在庫は前月比は減少、前年同月比は増加。前年同月比は11か月連続の増加となった。

### 3. 需要部門動向

6月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比43.8%減の45.6万tとなり9か月連続で前年同月を下回った。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年6月の伸銅品生産は前年同月比28.7%減の46,230t(確報値)と19か月連続の減少となった。黄銅製品では、黄銅条が45.8%減の4,686tで17か月連続の減少。黄銅棒が24.0%減の10,983tで5か月連続の減少となった。

### 亜鉛関連製品生産統計(2020年6月分=令和2年6月分)

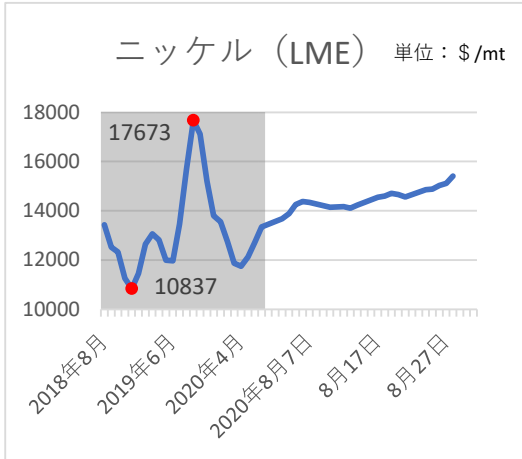
	2020年6月	2020年5月比	2019年6月比
亜鉛めっき鋼板	456千t	-11.9%	-43.8%
黄銅製品	17,643 t	-8.2%	-33.0%
亜鉛ダイカスト	954 t	+63.5%	-37.4%
酸化亜鉛(亜鉛華)	3,475 t	-11.4%	-38.9%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

## ニッケル

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ COVID-19 感染拡大からの経済活動再開や中国のインフラ投資政策により上昇
- ・ 8月28日、2019年11月以来の高値となる\$15,414

(2018年8月～2020年7月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際ニッケル研究会(INSG)の8月21日発表によると、2020年1～6月の世界のニッケル需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～6月の世界のニッケル需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～6月 実績	2019年1～6月 実績	増減率	2020年間予測 (2019年10月発表)
鉱石生産	1,062	1,186	-10.4%	—
地金生産	1,175	1,151	+2.1%	2,476
地金消費	1,099	1,182	-7.1%	2,522
需給バランス	+76	-31		-47

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2020年1～6月 実績	2019年1～6月 実績	増減率
鉱石生産	52	51	+1.8%
地金生産	352	394	-10.5%
地金消費	617	633	-2.6%

(出典) 国際ニッケル研究会



## 【国内】

### 1. メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年7月分=令和2年7月分)

	2020年7月	2020年6月比	2019年7月比
生産	5,043 t	+5.4%	-19.9%
出荷	4,515 t	+10.2%	+3.7%
在庫	5,972 t	+9.7%	+25.8%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が3か月連続の増加、前年同月比は3か月ぶりの減少。出荷は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は3か月ぶりの増加。出荷の内訳は特殊鋼向けが前年同月比40.5%減の729tで3か月連続の減少。在庫は前月比、前年同月比ともに3か月連続の増加となった。

### 2. フェロニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年7月分=令和2年7月分)

	2020年7月	2020年6月比	2019年7月比
生産	2,781 t	-4.9%	-32.7%
出荷	2,982 t	+19.5%	-24.4%
在庫	8,245 t	-2.4%	+35.2%

(出典)日本鉱業協会受払(ニッケル含有量ベース推計値)

生産は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は5か月連続の減少。出荷は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比が7か月連続の減少。在庫は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は24か月連続の増加となった。

## 金

### 【海外】 価格推移



- ・ 安全資産とされる金の相場は依然として高水準
- ・ 7月24日以降、2011年9月の史上最高値を更新し、8月6日に\$2067.15

(2018年8月～2020年7月の値は月平均)

### 【国内】

#### 1. 建値推移(円/g)

8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月11日	8月12日	8月14日		
6,763	6,777	6,872	6,960	7,050	6,926	6,592	6,753		
8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日	8月24日	8月25日	8月26日		
6,659	6,790	6,795	6,634	6,631	6,600	6,612	6,624		
8月27日	8月28日	8月31日							
6,655	6,650	6,715							

#### 2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2020年7月分=令和2年7月分)

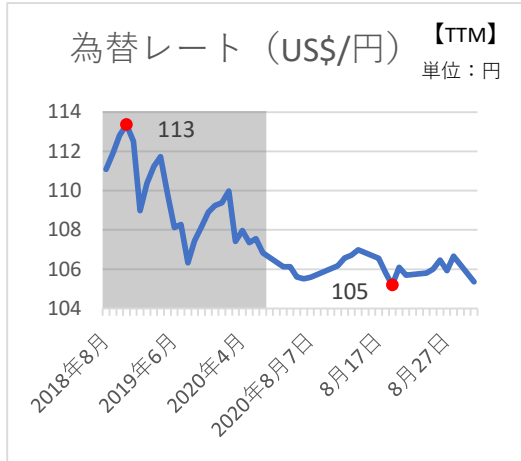
	2020年7月	2020年6月比	2019年7月比
生産	8,492kg	-3.6%	-9.3%
出荷	8,591kg	-4.3%	-5.9%
在庫	3,963kg	-2.4%	-11.2%

(出典)経済産業省生産動態統計調査

生産は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は2か月ぶりの減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は3か月連続の減少となった。在庫は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は4か月連続の減少となった。

## 為替相場

### 為替相場推移



(2018年8月～2020年7月の値は月平均)

- 7月31日の\$1=104円台から米金利上昇、株高により上昇したものの、中旬は米追加経済対策協議の難航などにより下落